（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270100732		
法人名	医療法人　仁風会		
事業所名	グループホーム雲陽の里		
所在地	松江市大庭町1459−1		
自己評価作成日	令和5年3月5日	評価結果市町村受理日	令和5年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い共有スペースの中でゆっくりと利用者さま一人一人のペースに合わせながら、個々の力を生かせる生活を送ってもらえるようなサポートを心がけている。周囲には季節ごとに梅や桜・牡丹等の花が咲き、近くの田仕事の様子を見ながら散歩ができたり、プランターを利用して野菜作りも出来る環境がある。また、医療との連携が充実しており、健康管理の体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成14年に開所し丸21年が経過。精神科の病院に複数のデイケア、社会復帰施設にグループホームと法人全体の建物が集合して建っている。母体が病院で重度になっても入院などの対応が可能な為、家族の安心に繋がっている。住宅地の中にあり静かで、畑などの自然も残り季節の変化を感じられる恵まれた環境にある。コロナ禍以前は多くのボランティア交流があり、外出活動も盛んに行われていたが、ここ数年は途絶えている。コロナ禍生活で職員体制が整わない中、昨年末には、職員、利用者1名ずつから新型コロナウィルスの感染者が出ている。精神疾患と認知症を合わせ持つ方が殆どで、対応の難しさも想像できるが、職員間で協力して最小限の感染で終息している。コロナ禍のストレスを含め日頃のケアに不安を感じる職員の声も聞かれたが、今年になり職員体制も整ってきているので、改めて職員間の意識統一を図り、認知症ケアの充実に取り組んでいただきたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念をホーム内に掲示し、職員は共有・把握をしている。	平成14年に開所した当時からの理念を継続している。新人職員に関しては法人全体の研修の中で理念についての話がされている。法人内の異動はあるが、病棟の理念とも繋がっており職員間で共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行以前はボランティア依頼や中学校・高校の実習受け入れを行っていたが、感染症予防の為に現在は受け入れができていない。	コロナ禍以前は敬老会で地域のサークルの方々が芸を披露したり、傾聴ボランティアで来園されたり、トリマーの専門学校からはアニマルセラピーを受けたり、実習生の受け入れなど多くの関わりがあったが、途絶えている状況。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の集まりに招かれて法人内より勉強会に出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症流行により施設内での開催から法人内の施設に会場を移したが地域の方に複数参加いただき意見を聞く機会を持っている。	新型コロナウィルスの感染者が多い時は書面開催にしていたがそれ以外は、隣接する法人内で行っている。地域の自治会長や社協の会長、民生委員2名に地域包括からの参加がある。入居者の身体状況や生活の様子や研修等の報告を行い意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取るように考えているが、日常的な連絡相談は十分に行えていない。	運営推進会には地域包括から参加があり専門的な意見を得ている。介護保険課とは認定調査での関わりがあったり、生活保護担当課とは年に1回訪問を受けたり、情報を共有するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・行動制限の具体的な内容については理解できている。法人とは別に身体拘束適正化委員会を設け継続的な啓発を行っている。	不意に外に出たり、家に帰るような行動に出る方があるが、側に付くことを嫌う方の場合は少し離れた所から見守るようにしている。定期的に身体拘束の委員会や4施設合同での苦情解決委員会を行っており、事例検討や虐待を含めての話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や行政主催の研修会に参加し伝達研修を行っている。またホーム内でも注意して対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については理解している。また、日常生活支援事業について利用や相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用い、時間を取って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアについては面会時や介護計画書の説明時に本人・家族に状況説明・意向確認をしている。また、ホーム内に苦情対応の職員・外部担当者を掲示し、毎月外部委員を含めた苦情解決委員会を開催している。	法人全体では年2回広報誌を作成して地域に配布。家族には不定期だが行事の様子等の写真入りの便りを送っている。請求書を送る際には、通信欄を設け様子を伝えるようにして、意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にインシデントを考察する際や、勤務交代時の申し送りの時に意見交換を行っている。	管理者は個人面談の必要性を感じながらもできない状況だが、夜勤の時など声をかけ話すようにしている。職員体制が整わない時期があり、職員間での情報共有に不安を感じる声も聴かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の勤務状況・資格取得の状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には参加しているが、外部での研修を受ける機会は十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加の際に情報交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時や判定会議の前の施設見学、面談を通じて意向確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や施設見学時の面談を通じて意向確認をしている。又入所後も面会時などの状況報告の時に意向確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面会時などで意向を確認し、対応について助言や援助をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を定期的なアセスメントで確認し、出来る事をしてもらう、あるいは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症流行によりご家族さまからの面会希望も減り関係性が薄れる事を憂慮しているが、本人からの面会希望は必ず伝え来所の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期購読していた新聞を施設に配達してもらっていた方は、配達員の方と話される事もあった。	コロナ禍で面会ができない状況が続いたことから、遠慮されたり、二の足を踏まれるケースが多く見られる。理美容は法人内に部屋を用意して、地域から来てもらい2，3人ずつしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間では自由に座ってもらい馴染みの方同士で話をされている。利用者同士の声掛けや促しもトラブルにならない限り見守るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースの状況により連絡や面談などで相談・支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で意向を確認しながらケア記録や申し送り・カンファレンスの中で共有している。	ゆっくり時間をかけ思いを聞き出すことが必要と考えている。ふと口から出た言葉や表情のいい場面を記録に残しプランに繋げるようにしている。	個々の思いを聞き出すことでより良い個別援助計画が作成できるように努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の情報提供や面談、入所後の本人・ご家族の話から状況の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録・定期的なアセスメントで現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメントとカンファレンス、主治医への相談等、本人とは日々の関わりの中で、ご家族からは面談時の話等から意向を確認しながら介護計画を作成している。	定期に評価表を記入。コロナ禍で集合して担当者会議はできていないが、家族には事前に電話で要望を聞き、職員間で担当者会議を行い計画作成し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に様子や職員の気付きなどを記録し、申し送りやカンファレンスの時に共有し、見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前のように法人内の施設利用者と交流を持つ事が出来なくなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じ感染予防対策をとって訪問理美容を利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	概ね1か月ごとに定期受診をしている。その他の急変時など何かあれば日常的に相談を行っている。	家族対応で今までのかかりつけ医を続ける方もあるが、法人の病院がかかりつけ医の方が殆で施設から職員付き添いで月１回受診している。緊急時の対応も可能で、歯科の往診もあり医療体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する病棟看護師や訪問看護師に相談し、受診や処置の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関への情報提供・カンファレンスの参加・ご家族との連携などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての方針について申し込み時・契約時に説明を行っている。また、個別のケースに関しては主治医を交えた家族との面談等で対応している	今まで看取りの実績はないが、法人内に医療体制が整っており重度になっても受け入れが可能で家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については研修等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な防災・避難訓練を実施している。また、地域の防災協定にも参加している。	数年前、施設横の川が氾濫しそうになり隣の病院に1晩避難している。今年度は火災報知器の誤作動で消防自動車が来たり、想定外な事がおき改めて訓練の必要性を感じている。隣接する病院が高い位置に建っているため、グループホーム単独で移動する訓練をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度に注意しながら対応している。	あまり多くはないが、マスク着用の為聞こえにくい場合に、短い言葉で端的になり、きつく聞こえることがあったり、方言の使い方やくだけた口調が気になることがある。ケアの基本として繰り返して取り組むこととし、法人全体の接遇研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中で選択肢を提示し選んでもらったり、意向を確認しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に応じて様子を見ながら無理や強引な対応をしない様に、個々のペースに合わせた生活をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは家族に用意してもらった物を個々の能力に応じて選んでもらったり、本人の意向を確認しながら訪問理容の手配をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好は把握できている。プランターで育てた野菜を収穫したり、出来る方には片付けをしてもらっている。また、誕生日などには食べたい物を聞いて食事やおやつに出したり、行事として全員で工程を分担して調理する事もある。	あまり多くはないが、タケノコの皮を剥いたり、土筆の袴を取ったり季節を感じてもらえるようにしている。料理に関わる方は少なく、テーブルやお盆などを拭く手伝いをされている。食事が楽しみになるように昼夕のメニューが大きく掲示してある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態や、嗜好を把握し、状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯洗浄など個々の能力に応じた声掛けや支援を行い、歯科衛生士に個別ケアについて相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、紙パンツ・パットを使用されていても、出来る限りトイレに誘導し排泄してもらうように支援している。	全員が紙パンツにパットを使用している。ほぼ自立の方が2名でその他の方はパットの処理ができない為、介助が必要。できるだけトイレで排泄できるよう個々に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立や食器等の工夫により水分量が確保できるように状態を観察、主治医との連携等により行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ずつ入浴している。拒否のある方には再度の声掛けや時間帯・日にち調整したり、入浴にかける時間も個々のペースに合わせてゆっくりと入ってもらう等一人一人に応じた支援を行っている。	午後入浴で週2回入れるように調整している。短時間入浴で中に入らない方があったり、入浴したことを忘れている方もあり、個々に合わせた対応としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動参加や離床の促しなど、生活リズムが乱れないよう心掛けている。休息や就寝も個々の状態に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	能力に応じた介助で確実に服薬できるように支援している。病状変化についても記録に残し、主治医に相談している。服用している薬の作用・副作用のわかりやすいファイルを作り職員全体が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、レクリエーション・掃除・洗濯等出来る事で役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺には散歩に出掛けている。限定的ではあるが年2回の外出行事も再開している。家族同行の他科受診の際は条件付きで一時帰宅をされた方もあった。	コロナ禍の為外出の機会は大幅に減っているが、昨年秋には全員でバスで外出しており、桜の時期にも計画したいと計画中。施設周辺は畑があったり草木を眺めることができるので、玄関先で外気浴している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	心理的な不安を考慮してお金を所持しておられる方は有るが、実際に必要な物は希望を聞いて家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が間に入って電話をしている。かかってきた電話も必ず取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さまのおられる場所からの音や光の具合に気を配りグリーンカーテンを設置したり、毎日の掃除で環境の変化を確認したりして対応している。	天井が高くデイルームは十分な広さがあり、全体的に白を基調とし明るい。畳の部分があるが上がり降りがしにくい為使用していない。天井扇があり、空調の効果を高めており、感染症予防の換気にも有効。道路から入った所の立地のため、車の騒音も無く静か。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の長椅子・居間のソファ・食堂のテーブル・和室等自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置家具の他に、家具やテレビなどの持ち込みは自由で、仏壇を持ち込まれる等好みに合わせた部屋に出来るよう配慮している。	ベッド、タンス、床頭台、洗面所にイスが設置してある為、あまり多くの物は持ち込まれていない。部屋は広めで動線を考えベッドを配置している。タンスの上にテレビや家族写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さま個々の能力を把握しながら、移動方法や作業の場所などを考えて生活を送ってもらえるようにしている。		